

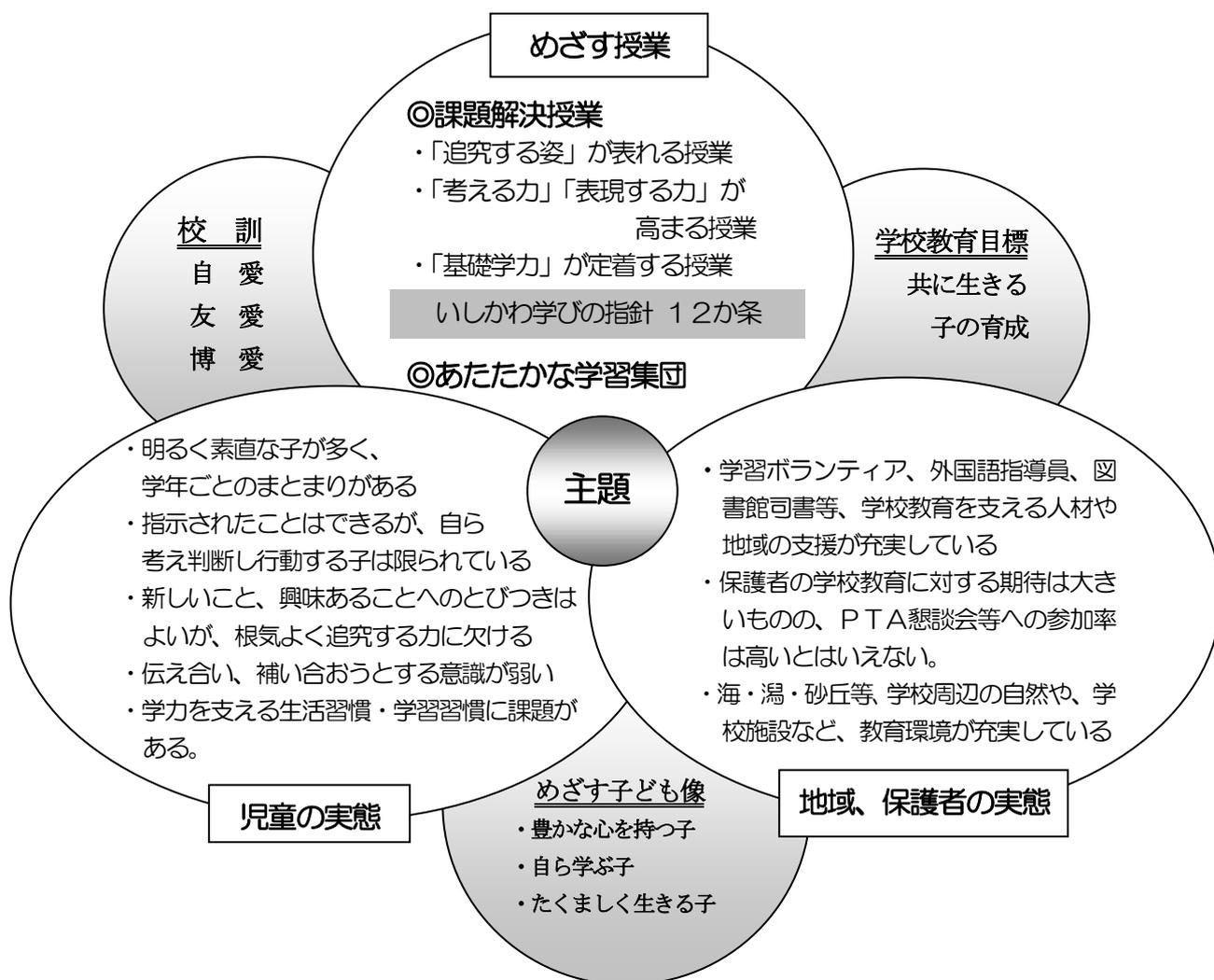
# 平成 29 年度 校内研究

## 1. 研究主題

自ら考え、追究する子をめざして

～話すこと・聞くことの指導を通して～

## 2. 研究主題・副題設定の理由



本校では、平成19年度から、研究主題を「自ら考え、追究する子をめざして」とし、追究する姿がみえる授業づくりを目指し、実践を積み重ねてきた。

本校が考える「自ら考え、追究する子」とは、課題を見出し、個や集団の中で、既習事項やこれまでの経験を総動員して課題の解決や達成に向けて考え、それを表現し合うことで学びを深めるとともに、さらに新たな課題を生み出し追究し続ける姿である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子どもたちに、ぜひとも獲得させたい。

昨年度は、児童一人一人が「自ら」そして「共に」学び、「身体で活動してアクティブ」にしていくのではなく「頭の中がより活性化してアクティブ」になるために、どのような活動の場を設定するとよいか、どんな働きかけをしていくとよいのかについて、教科のみならず道徳の時間も含めて実践を行ってきた。その結果、これまでの児童の思考とずれのある発問・問い返しや学習素材の提示を行うこと、授業のねらいに向けて表出させたい根拠・理由を明らかにする問い返しを行うことが効果的であることを確認できた。また、「共に」学ぶための少人数対話を積極的に取り入れてきたことで、自分の学びを確認するためのペア活動や、多様性を学ぶためのグループ活動などのように、目的を明確にした対話の必要性について授業者の理解が進んできた。これらの指導の工夫によって、積極的に課題について考え、解決していこうとする児童の姿が見られるようになってきている。

しかし、教師の問いに意欲的に反応したり、友達の考えを繰り返し話したりすることはできるが、相手意識をもって分かりやすく伝えたり、他の考えを自分の考えに取り入れて再構築したりする児童は、それほど増えていないのが現状である。また、注意がそれやすく教師の指示や友達の話最後まで聞くことができない児童も少なくない。相手意識をもって話すこと・聞くことは、「考え、追究する」ための土台となる大切な力であるが、どう話すか、どう聞くか、どう話し合いを進めればよいのか分からない児童が多いことが考えられる。

そこで、今年度は、児童一人一人に相手意識をもった話す力・聞く力を身に付けさせることで、自分の理解を確かなものにしたたり、みんなで学び合うことにおける考えの深まりや良さに気づいたりして、新たな追究意欲をもつ児童を育てたいと考えた。そのため、副主題を「話すこと・聞くことの指導を通して」とし、研究に取り組むことにした。

### 3. 研究の仮説

童に必要感が生まれるように、授業者が、話すこと・聞くことの指導の工夫を行い、児童一人一人に相手意識をもった話す力・聞く力を身につけさせることで、学習のねらいに向けた話し合いが充実し、より主体的に友達と関わり合いながら学びを深め、楽しみ、新たな課題について「自ら考え、追究する力」をつけていくことができるであろう。

### 4. 研究の重点

話すこと・聞くことの必要感が生まれる指導の工夫を行うことで、  
自ら考え、追究する力を高める授業づくりを実践する。

## 5. 授業づくりの具体的な取組

### (1) 話すこと・聞くことの必要感を生み出す指導の工夫

- ・児童の実態に応じて、必要な指導の工夫を行った授業づくりを行う

	児童の実態	必要な指導の工夫例
話すこと	言葉が浮かばない 伝わらない	話型の活用、メモの準備、短文、主述 言葉の宝箱の活用、辞典の活用 読書の充実、用語確認
	問われていることが分からない	個別指示、児童相互の助け合い
	自分の考えを持ってない	既習提示の充実、ヒント・キーワードの提示
	安心できない 伝えたい相手がいない	温かい人間関係づくり、 より良い聞き手の育成
	聞くこと	関心が薄い 注意がそれやすい

- ・研究授業を中心として、全員で共通理解しながら成果を積み上げる
- ・週に1時間、授業づくり自己診断表を用いて、教職員一人一人が成果と課題を明確にしていく
- ・学期末に低・中・高学年ブロックで成果と課題についてまとめる

### (2) 国語科の既習を基にした話すこと・聞くことの指導

- ・国語科の「話すこと・聞くこと」単元の既習事項を、授業者が、系統表をもとに把握し、各教科の指導に当たる

### (3) 話し方名人・聞き方名人の活用

- ・話し方名人…児童が筋道を明確にして、相手により分かりやすい伝え方が出来るように、「考え・根拠・理由」を明確にさせる指導を行う
- ・聞き方名人…自分の考えを深めるための聞き方の視点を持たせる指導を行う

## 話し方名人



書く

考

え

学習用語を使って  
分かりやすく整理して

根拠

も

と

何をもとに考えたか  
どこから分かったか

理由

わ

け

どのように考えたか  
どうしてそう考えられるか

文・数  
図・表  
グラフ・写真  
絵・自分の経験  
前に学習したこと など

…を見てください。

…と書いてあります。

…と分かります。

…は、…です(でした)。

わけは、…です。

どうしてかというところ…

…ということだから

…と考えられるので

## ききかためいじん



じぶんのかんがえと  
おなじかな

わからなかったことが  
わかるようになったかな

じぶんのかんがえと  
なにがちがうかな

じぶんにはない  
かんがえがあるかな

どうしてそんなかんがえ  
に合ったのかな?

## 6. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

### (1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

#### ① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

- ・8:10～8:20の10分間、担任の指導のもと、取り組む（職員朝礼がある月曜を除く）
- ・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

曜日		内容
月	読書	・読書（読書カードの記入も含む）
火	AKBタイム	活用力向上のための課題 ・根拠や筋道を明確にして表現させる表現力の向上のための課題 ・本校児童の課題の克服のための課題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用）
水・金	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 （国語）漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など （算数）四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など
木	読書	・読書（1～4年） ・小学生新聞等を活用した新聞読書・視写（5・6年）

#### ② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定  
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定  
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習  
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・学習日より「CATCHBALL」・「家庭学習のてびき」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

#### ③ 読書活動の充実を図る

- ・朝読書（毎週月曜・木曜、高学年は週1回の新聞読書）、読書週間の設定
- ・図書室イベントの開催
- ・地域ボランティアによる「お話会」、英語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」（月1回）
- ・家庭読書の日の設定（毎月23日のいしかわ学校読書の日、長期休業中の親子読書）

#### ④ 各種学力調査により、児童の学力の定着状況をとらえ、弱点克服のための取組を実施する

- ・全校挙げての組織的な弱点克服・指導改善の取組の推進  
学力調査実施後、速やかな採点・分析・取組の実施  
教科部会を組織し、採点の実施、指導改善・弱点克服の取組の検討と実行
- ・各学力調査の過去問題の活用（朝学習・RKBタイム・単元末テスト）
- ・朝学習の計画的なプリント学習（AKBタイム）  
弱点の補強、特に重要な学習内容の繰り返し学習、学力調査問題の活用
- ・到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（放課後・長期休業中 等）
- ・校内学習到達度調査の実施により、活用力・表現力の伸長と指導改善を図る

#### ⑤ 学習規律の確立を図る

- ・学習の構えについての全校共通指導

あたりまえにできること（習慣化すること）を目指す

学習だより・清湖できるよカードによるふりかえりの場の設定

・ノート指導の充実

ノートの書き方についての全校共通指導

より良いノート作りのためのナディ・ノート掲示

## （2）教師の指導力の向上を図る

### ① 授業研究の実施

- ・研究授業には外部講師を招聘。視点を明確にして協議を行う
- ・研究授業通信を発行し、授業整理会後の成果と課題を共有し、明確になったことを共通実践にいかす
- ・日常的な授業研究を進められるよう授業公開時間を各教職員が毎週1回設定し、相互授業参観を行う

### ② 校内職員研修の実施

- ・全職員が参加し、組織的に実施

（得意分野のポイントを伝え合う、お互いの取組を紹介し合う、研修の成果を報告する など）

## （3）よりよい実践を積み重ねていくための検証方法の具体化

- ・児童の変容・取組の成果についての検証の方法・観点を明確化し、学力調査や児童の姿、アンケートなどを活用した検証を行い、その結果をもとに、さまざまな方策や研究推進体制の改善を図る。

### ① 学力調査・単元テスト

国・県・町学力調査（4月／4・5・6年）、評価問題（11月・2月／5年）、

校内学習到達度調査（2月／全学年）

- ・課題を把握し、その課題の改善が図られているかを、正答率・解答状況で検証
- ・校内到達度調査は、学力調査等で課題になった点が改善されているか、根拠や筋道を明確に表現する力が身についているかどうかを検証するため、問題を自作するなど工夫して実施

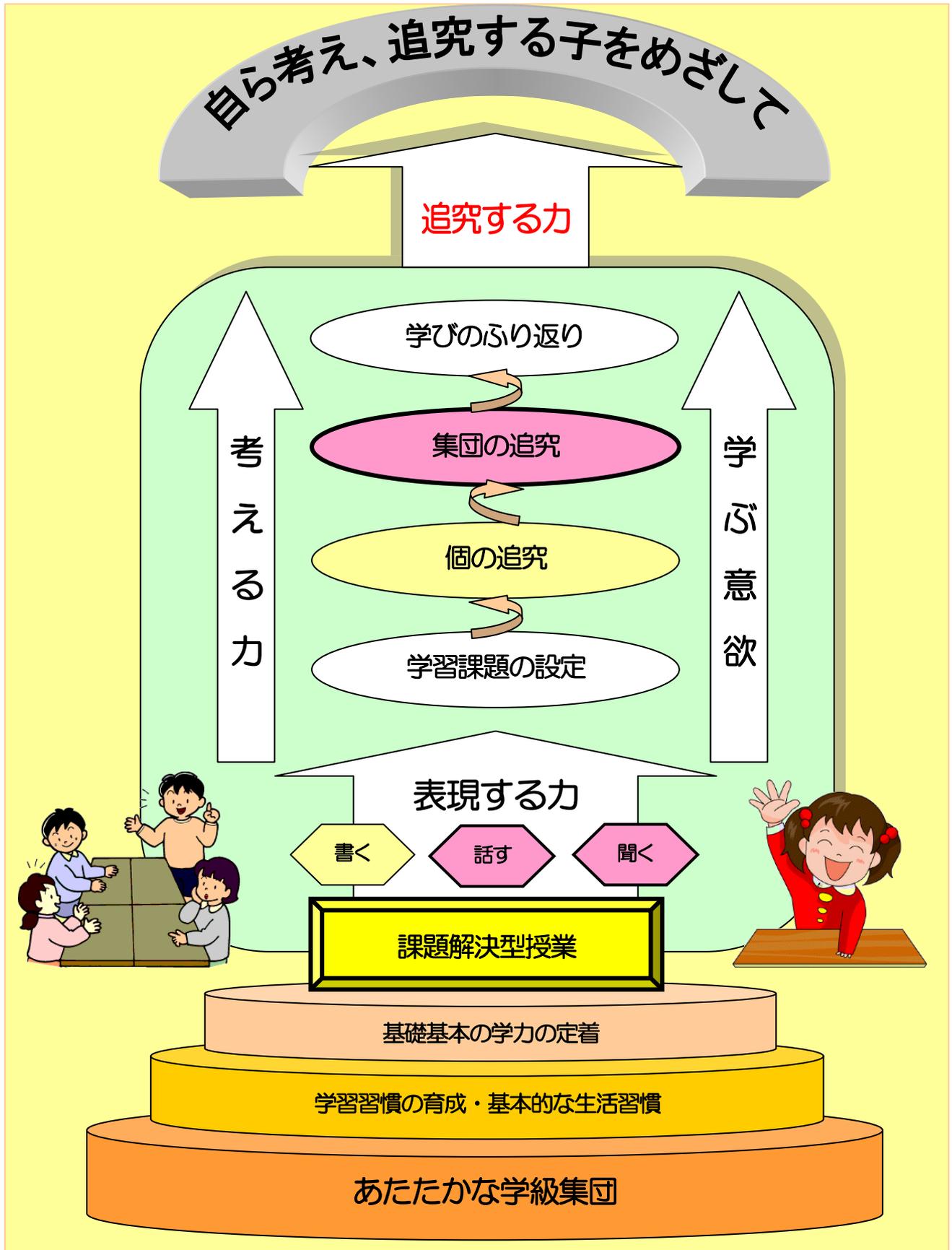
### ② 家庭学習・漢字・計算ステップアップ週間

- ・家庭学習 … 学年目標時間の達成日数の変化で検証
- ・計 算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 問題を初見で「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

### ③ 学校評価、児童・教職員アンケート、清湖できるよカード

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

## 7. 研究構想図



# 課題解決型授業

児童

教師



- ・あれ？不思議だな
- ・なぜだろう？
- ・考えてみたい、やってみたい
- ・どのようにしたらいいかな
- ・何かきまりがあるのでは？
- ・〇〇ができるように  
    取り組んでいこう
- ・考えてみたい。

## 課題の設定



## 個の追究

- ・自分の力で考えてみよう
- ・できないところを  
    できるようにしたい。
- ・前に学んだことを使ったら  
    解決できないかな
- ・理由をはっきりさせよう
- ・他のやり方でやってみよう

自分の考えをわかりやすく伝えよう  
 これまでに学んだ学習内容や  
 伝え方を使って表現しよう

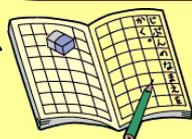
- ・みんなの考えを聞きたい
- ・自分の考えと同じだ
- ・〇〇という点では、少しち  
    がうところがあるぞ
- ・どんなことを言いたかった  
    のか質問してみたい
- ・なるほど、そんな考えもで  
    きるのか

## 集団の追究



- ・課題に対する答えがはっきりしたぞ。
- ・はじめの自分よりも考えが深まった。
- ・〇〇さんの考えの方は、とてもわかりやすかった
- ・〇〇を使って考えたらできた
- ・学習用語を使い、根拠をはっきりさせてまとめよう
- ・次はこれを考えてみたい

## 学びのふりかえり



### ☆追究意欲が高まる

#### 単元構成や課題の工夫

- ・主体的に課題をもてる工夫
- ・根拠や筋道を明確に表現できる課題づくり
- ・単元のゴールを見通した課題づくりと  
    効果的な言語活動の設定

### ☆「書くこと」の充実を図る

- ・基本的な書くためのアイテムを獲得させる  
    (ノートの書き方の指導・ワークシートの工夫  
    教科に応じた表現方法の指導 など)
- ・既習事項をふりかえり、  
    考えをもつことにつながる教室掲示

既習事項・アイテム  
 を活用させる

### ☆「話す力」「聞く力」をつけ、話し合いの充実を図る

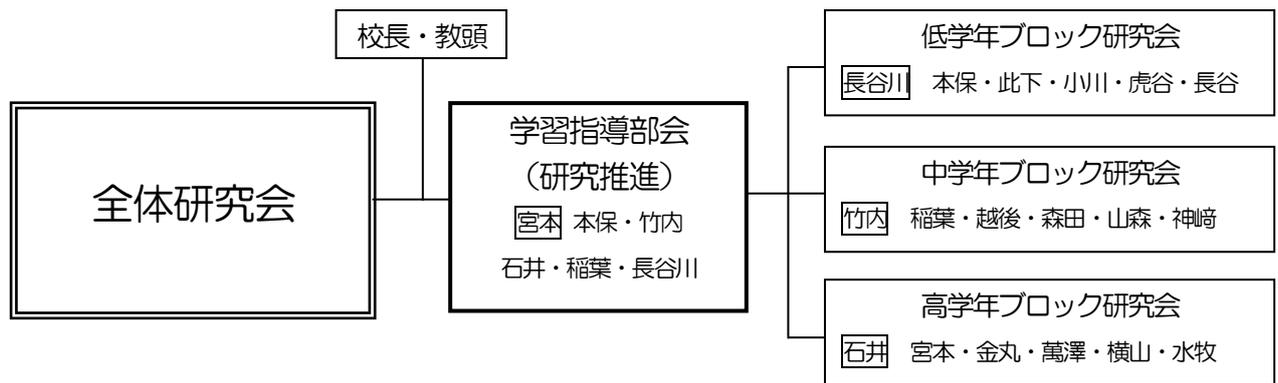
- ・考えを伝えるためのアイテム  
    (基本的な話し方) を獲得させる
- ・思考を深め、ねらいにせまるための発問
- ・授業の流れが分かり、  
    気づきが生まれるような板書の工夫
- ・考えを高めるための適切な場を、  
    目的をもって設定する

### ☆変容を実感するための

#### ふり返りの場をもつ

- ・本時をふりかえり、自らの変容を  
    自らの言葉でまとめるための時間の確保
- ・どんなよさがあるのかを明らかにし、  
    次の意欲になるような振り返りの工夫
- ・児童にみられたよさを広める機会の設定  
    (学びのあしあとを記したノート交流など)

## 8. 研究の組織と活動内容



・ は、各部会の責任者

- ・低・中・高学年の「ブロック研究会」を組織する。
- ・ブロック研究会は担任する学級が所属するブロックに所属する。
- ・全員が、校内研究授業を1回ずつ行う。
- ・担任・少人数担当は国語または算数で、級外は担当教科で、研究授業を行う。
- ・各ブロック各1回全体研究授業を行い、校内研究の視点・重点の具体化について、共通理解の場とする。
- ・研究授業では、事前研究会・整理会をもつ。また、外部講師を招聘し、指導・助言をいただくことで研究の充実を図る。
- ・全体研究授業には、全職員が参加する。ブロック研究授業には、当該ブロック研究会に所属する職員が参加する。なお、他ブロックに所属の職員も、各研究授業を積極的に参観するように努める。

## 9. 年間活動計画案

会 月	学習指導部関係	研究授業等関係		
		低学年	中学年	高学年
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織と役割分担</li> <li>研究主題・研究の重点の共通理解</li> <li>年間研究計画案作成・指導案形式の共通理解</li> <li>国・県・町 学力調査の実施（4・5・6年）</li> <li>提案授業</li> </ul>			全/宮本(算数)
		算数の授業をもとに、今年度の重点について確認する。		
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>国・県学力調査の採点・分析、町学力調査の分析</li> <li>課題解決に向けた取り組みの検討</li> <li>教科部会（重点の設定）</li> </ul>	指導主事学校訪問B（全体研究会） 5/17		
			全/山森(道徳)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習・計算ステップアップ週間①</li> <li>家庭学習・漢字ステップアップ週間②</li> </ul>	ブ/小川(算数)	ブ/稲葉(算数)	ブ/石井(算数)
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート（学校評価）</li> <li>検証問題の実施</li> <li>ブロック研究会（1学期のふり返り・取組内容の報告）</li> </ul>	ブ/長谷川(特支)	具体的な授業を通して、研究の重点について確認し、今後の研究の視点の明確化を図る	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査詳細分析</li> <li>A 訪問公開授業指導案検討</li> <li>校内学習到達度調査 問題作成</li> <li>全体研究会（2学期に向けて・学力調査分析）</li> </ul>	1学期のふり返りが生かされているかを確認し、今後の研究の充実を図る。		
9月		ブ/此下(国語)	ブ/森田(算数)	ブ/横山(特支)
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習・計算ステップアップ週間③</li> </ul>	ブ/本保(算数)	ブ/越後(国語)	ブ/水牧(算数)
	今年度の研究の具体的な姿を各教科において示し、今後の研究の充実を図る。	指導主事学校訪問A（全員授業公開） 10/18		
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習・漢字ステップアップ週間④</li> <li>評価問題（5年）実施、採点・分析</li> </ul>	全/虎谷(算数)	ブ/竹内(国語)	ブ/萬澤(算数)
		重点への具体的な取組状況の確認を通して、今年度の成果を共有し、まとめて生かす		
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>検証問題の実施</li> <li>ブロック研究会（2学期のふり返り）</li> <li>授業アンケート（学校評価）</li> </ul>	ブ/長谷(音楽)	ブ/神崎(理科)	ブ/金丸(国語)
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>町学力調査の実施（3年）</li> <li>研究の成果とまとめ</li> </ul>			
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内学習到達度調査（1～4・6年）実施、採点・分析</li> <li>評価問題（5年）実施、採点・分析</li> <li>家庭学習・漢字ステップアップ週間⑤</li> <li>全体研究会（今年度の振り返り・次年度にむけて）</li> <li>研究紀要作成</li> </ul>			
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究紀要発行</li> </ul>			